

# ロシアの新星コンサート 2026

サンクト・ペテルブルク音楽会館  
特別推薦

「芸術の大使館」  
プロジェクト



Проект Санкт-Петербургского Дома Музыки «Посольство мастерства»

芸術の都の新進気鋭ソリスト3氏による特別公演!  
チェロ、クラリネットとピアノのガラコンサート



チェロ  
виолончель

Александр Рамм

**アレクサンドル・ラム**

1988年ウラジオストク生まれ。モスクワ国立音楽院(ソ連人民芸術家N・シャホフスカヤ教授に師事)およびアイスラー記念ベルリン音楽学校(フランス・ヘルメルソン教授に師事)卒業。2015年第15回チャイコフスキー記念国際コンクール(モスクワ)第2位。ヴァレリー・ゲルギエフ、ウラジーミル・フェドセーエフなどの指揮者やロシアの一流オーケストラと共演。2025年には若手文化人対象のロシア連邦大統領賞を受賞。



クラリネット  
кларнет

Никита Лютиков

**ニキータ・リュチコフ**

1991年サンクトペテルブルグ生まれ。サンクトペテルブルグ国立音楽院卒業(A・カザコフ教授に師事)。2014年よりD・ショスタコーヴィチ記念サンクトペテルブルグ・アカデミー交響楽団ソリスト。2007年第4回国際管楽器コンクール(米国)優勝。2015年アントワープ(ベルギー)国際クラリネットコンクール第2位。サンクトペテルブルグ国立アカデミー交響楽団ほかと共演する。



ピアノ  
фортепиано

Тимофей Владимиров

**チモフェイ・ウラジーミロフ**

2001年ウファ市生まれ。2023年モスクワ国立音楽院卒業(ロシア功労芸術家A・ピサレフ教授に師事)。現在は研究生として同教授の元で研鑽。2020年第19回国際ピアノコンクール「Piano Campus」(フランス、ポントワーズ)第1位および8つの特別賞受賞。ロシアの一流オーケストラと共演。現在モスクワ・フィルハーモニーのコンサートに出演し、プロジェクト「21世紀のスターたち」に参加。

2026年

5月12日 14:00 音楽の友ホール Aプロ

13日 14:00 横浜・みなとみらい小ホール Bプロ

14日 14:00 さいたま・市民会館おおみやRaiBoc小ホール Cプロ

入場料: 全席指定 3,000円(税込) 問い合わせ先・チケット: ロシアン・アーツ 03-5919-1051 (平日11:00-17:00) russian-arts@e-mail.jp

主催: ロシア文化フェスティバル組織委員会&ロシアン・アーツ

協力: 連邦国家予算文化機関サンクトペテルブルグ音楽会館

後援: ロシア連邦外務省、ロシア連邦文化省、駐日ロシア連邦大使館、ロシア連邦協力庁、ロ日協会、INARTEX

「芸術の大使館」プロジェクト

# ロシアの新星コンサート 2026



Проект Санкт-Петербургского Дома Музыки «Посольство мастерства»

## 演奏プログラム

### プログラムA

vc:チェロ cl:クラリネット P:ピアノ

- J・S・バッハ(1685-1750)作曲/ブゾーニ(1866-1924)編曲/ヴァイオリン無伴奏バルティータ第2番二短調BWV.1004より「シャコンヌ」(p)  
F・プーランク(1899-1963)作曲/クラリネットソナタFP184 (cl・p)  
P・チャイコフスキー(1840-1893)作曲/S・ベイレゾン(1881-1953)編曲/バレエ「白鳥の湖」より ロシアの踊り (cl・p)  
S・フランク(1822-1890)作曲/J・デルサル(1844-1900)編曲/ヴァイオリンソナタイ長調(チェロ版) (vc・p)

### プログラムB

vc:チェロ cl:クラリネット P:ピアノ

- C・サン＝サーンス(1835-1921)作曲/クラリネットソナタホ長調op.167 (cl・p)  
S・ラフマニノフ(1873-1943)作曲/ピアノソナタ第2番変口短調Op.36(第2版) (p)  
I・ストラヴィンスキー(1882-1971)作曲/チェロとピアノのための「イタリア組曲」(バレエ音楽「プルチネルラ」より)K034b (vc・p)  
M・ムソルグスキー(1839-1881)作曲/組曲「展覧会の絵」より第9曲鶏の脚の上に立つ小屋/第10曲キエフの大門 (p)  
B・コヴァーチ(1937-2021)作曲/Sholem Alekhem,Rov Feidman!(ショレム・アレイヘム、ロヴ・ファイドマン!)(2004年) (cl・p)  
D・ショスタコーヴィチ(1906-1975)作曲/チェロソナタ口短調op.40 (vc・p)

### プログラムC

vc:チェロ cl:クラリネット P:ピアノ

- J・S・バッハ(1685-1750)作曲/ブゾーニ(1866-1924)編曲/ヴァイオリン無伴奏バルティータ第2番二短調BWV.1004より「シャコンヌ」(p)  
S・ラフマニノフ(1873-1943)作曲/チェロソナタop.19より (vc・p)  
D・ロヴェレーリオ(1841-1943)作曲/歌劇「椿姫」の主題による幻想曲 (cl・p)  
S・ラフマニノフ(1873-1943)作曲/楽興の時op.16より№3・4・5 (p)  
P・チャイコフスキー(1840-1893)作曲/S・ベイレゾン編曲/バレエ「白鳥の湖」より「ロシアの踊り」(cl・p)  
I・ストラヴィンスキー(1882-1971)作曲/チェロとピアノのためのイタリア組曲(バレエ音楽「プルチネルラ」より)K034b (vc・p)

## サンクト・ペテルブルク音楽会館との 音楽芸術交流はフェスティバルの中核

—ロシアの魂こもる演奏に感動広がる—

サンクト・ペテルブルク音楽会館とロシア文化フェスティバルIN JAPAN組織委員会は2019年7月18日に東京文化会館において「協力に関する協定書」に調印した。音楽会館はその年の10月にすぐミロスラフ・クルティシエフ(ピアノ、第13回チャイコフスキー国際コンクール最高位)を派遣、ふくしま国際音楽祭に出演、東日本大震災の被災者を無料で招待した。2020年、2021年はコロナ禍のため派遣中止を余儀なくされたが訪日予定だったアレクセイ・ロビコフ(トロンボーン)、アンドレイ・チェルコフ(ピアノ)、レフ・ジュラフスキー(クラリネット)の演奏動画をYouTubeで配信した。2022年はコロナ禍をのりこえて、ラヴィリ・イスリャモフ(ヴァイオリン、全ロシア音楽コンクール優勝、のちチャイコフスキー第2位)、A・ロビコフ、A・チェルコフが来日、トロンボーンの魅力が全開し美しい響きが心に残る。2023年はフォードル・オスヴェル(オーボエ、チャイコフスキー第2位)、イリヤ・パボヤン(ピアノ、チャイコフスキー第3位)、ヴァシーリ・ステパノフ(チェロ、チャイコフスキー第6位)という第17回チャイコフスキー国際コンクール全員が受賞者という贅沢なコンサートとなり、深く細やかな表現からロシアの魂を感じ、さらに超絶技巧満載の曲を弾きこなし若いエネルギーがほとばしる凄みのある演奏でウオーと

歓声が上がった。2024年はレフ・ジュラフスキー(クラリネット、チャイコフスキー第3位)、エリザベータ・クリュチェリョーヴァ(ピアノ、2023国際ピアノコンクール優勝)、アンドレイ・タラヌハ(パーカッション、2022国際打楽器コンクール優勝)の3人が出演、チャイコフスキーコンクール「ゲルギエフ時代」に導入されたロシア音楽界の新しい動向としての木管楽器、金管楽器の重用で注目され、クラリネットの繊細な美しいメロディー、タラヌハの声とトンバクの音とリズムは深く心に残った。2025年はパーヴェル・ミリュコフ(ヴァイオリン、第15回チャイコフスキー第3位)、ピョートル・フドノゴフ(フルート、2020年ウイーン国際コンクール優勝)、アレクサンドル・クリュチコ(ピアノ、2022年ラフマニノフ国際コンクール優勝、のち2025年仙台国際コンクール第2位)の実力派3人が登場、叙情的な心に響く楽器の音色と難曲の技巧的演奏で魅了、鳴りやまない拍手とブラボーに音楽芸術の役割と力を強く印象づけた。サンクト・ペテルブルク音楽会館との7年間の交流は総じて本物のロシアの魂のこもる音楽芸術の感動を日本市民に広げ、いまやフェスティバルの核となっている。

(佐野真澄=ロシア文化フェスティバル・コーディネーター)